



近藤 大介 議員

ため池決壊への備えは

町長

ハザードマップで周知している



予期せぬ災害に備えるハザードマップ

【近藤】本町では、明治26年に佐摩で1週間に1600mmもの大雨があり、家が流れるなど災害が発生している。

再びこのような規模の大雨が降った場合、どのような被害が想定されるか。

【町長】現時点では想定ができてない。県は来年の梅雨期までに管理河川の千年に1度の規模の大雨による洪水・浸水想定区域を示す。その後は判断ができるかと考えている。

【近藤】河川の氾濫、ため池の決壊などの備えはできているか。

【町長】主な河川は、県が水位計などで常時監視をしている。ため池は、地元関係者が管理しているが、災害のおそれがあるときは職員もパトロールをしている。また、ハザードマップなどで避難経路の周知、確認もしている。崩壊危険箇所は県が定期的に管理し、町も不定期だが点検などを行っている。

外国人労働者のメリットは

町長

農家の人手不足に早急に対応できる

【近藤】農業分野で外国人労働者を受け入れる特区に本町が応募したと聞いた。制度の概要、メリットは。

【町長】米子市の農業生産法人が特定機関をつくり、そこが町内の農家に、技能実習・語学研修が終了した外国人労働者を派遣する。メリットは農業の人手不足に早急に対応ができること。

【近藤】外国人労働者の受け入れについて、農業委員会の考えは。

【農業委員会会長】担い手農家などが規模拡大を進めるには農作業員は不可欠であるが、簡単に手配できないのが現実である。人手不足の解消に、

外国人労働力の活用も選択肢の一つだが、能力や技能・生活習慣の違いや、一部の大規模農家のみが恩典を受けるような体制にならない

いかとの心配もある。具体的な運用方法に、農業委員会の意見も反映できるよう関わりたい。



農家の人手不足は解消されるか